

# “有点儿”の連語と副詞の境界線

時 衛国

**要旨** “有点儿”是由“有(动词)+一点儿(数量词)”组成的，可以单独用。中间的“一”常省略，写作“有点儿”，也写作“有点”等。它既可以作为短语使用，如“有一点儿知识”，又可以作为程度副词使用，如“今天有点儿冷”。一般认为，作为短语的“有点儿”为其基本形式，后通过语法化扩展成为程度副词。现阶段两者并存使用，正确区分两者的用法将有利于正确理解各自的语法功能。本研究将在先行研究基础上考察“有点儿”的两种用法及其接点，阐明其各自的语法特征。

キーワード：“有点儿” 連語 副詞 接点 境界線

## 1. はじめに

“有点儿”<sup>1)</sup>には連語としての用法と程度副詞としての用法がある。連語としての用法とは、“有+点儿+名詞”という構造に用いられ、「～が少しある」という意味を表わす用法であるが、程度副詞としての用法とは、“有点儿+形容詞/動詞”という構造に用いられ、修飾語として状態性や程度性を含む形容詞や動詞などを修飾する用法である。ところが、“有点儿进步(少し進歩している)”は、連語としての“有+点儿+名詞”という構造とも、程度副詞としての“有点儿+形容詞/動詞”という構造とも考えられるので、判定しにくい。

“有点儿”にはなぜ、このような相違があるのであろうか。この二つの用法の接点はどこにあるのであろうか。“有点儿”の機能を理解するには、その境界線を探る必要があると思う。本研究は、“有点儿”のそれぞれの機能と用法について考察し、その境界線を明らかにすることとする。

## 2. 先行研究

具体的に分析する前に、まずこれまでの先行研究を紹介しておく。

“有点儿”の用法については、程美珍(1988)、马真(1989)、王聰(1993)、时卫国(1997)、时卫国(1998)、李宇明(2000)、张国宪(2006)、李伟(2007)、史彤嵐(2008)、時衛国(2015)、時衛国(2017)、時衛国(2019)、王学群(2019)どの蓄積がある。時衛国(2017)では“有点儿”と肯定命題と否定命題との関係、形容詞の重ね型との関係、他の副詞との共起関係などについて述べている。一方、時衛国(2019)では、“有点儿”と“一点儿”との関係について対照研究の立場から考察している。

王学群(2019)では、“有点儿”は連語として用いられ、副詞ではないと述べられている。氏の研究は参考になるものであるが、“有点儿”の連語としての用法と副詞としての用法については、さらに検討する余地があるものと考えている。特に両者の接点や境界線などについては詳しく説明すべきである。

## 3. 分析

### 3. 1. 連語としての“有点儿”

前述のとおり、“有点儿”は、「有+(一)点儿」のように、「動詞+数量詞」からなる連語である。“有”は動詞として、数量詞と共起して目的語を取ることができるという点では、他の動詞とほぼ同じである。つまり、「動詞(述語)+数量詞+名詞(目的語)」という構造を取ることができる。たとえば、“吃点儿东西(少しものを食べる)”、“看点儿书(少し本を読む)”、“想点儿问题(少し考え事をする)”、“做点儿事(少し仕事をする)”などがそれである。“有”は“有点儿修养(少し教養がある)”、“有点儿故事(少しストーリーがある)”、“有点儿情况(少し事情がある)”、“有点儿出入(少し出入りがある)”などのように連語を作ることができる。ただし他の動詞は動作や行為などを表わすのに対し、“有点儿”は所有や存在を表わす。

“有点儿”は連語として用いられる場合は、“有了点儿修养(少し教養があった)”、“有了点儿故事(少しストーリーがあった)”などのように、実現を表わす助詞“了(タ)”と共起することができるという点では、動作や行為などを表わす動詞と共通している。しかし、“着(テイル)”、“过(タコトガアル)”

などのような持続や経験を表わす助詞とは共起できない。たとえば、“\*有着点儿修养(「少し教養があった」の意)”、“\*有着点儿故事(「少しストーリーがあった」の意)”、“\*有过点儿修养(「少し教養があった」の意)”、“\*有过点儿故事(「少しストーリーがあった」の意)”などの表現は成立しない。“有”は量的語句と共起しない場合は、動詞として、“有着良好的修养(よい教養を身につけている)”、“有过精彩的故事(素晴らしい物語があった)”などのように、“着(テイル)”、“过(タコトガアル)”とは共起することができるが、“点儿”という数量詞を受けると、共起することができなくなる。

“有+名詞”と“有+点儿+名詞”は、いずれも連語として、程度副詞による修飾を受け入れることができる。“有+名詞”の場合は、“很(とても)”、“颇(頗る)”、“非常(非常に)”、“十分(十分)”、“相当(相当)”、“特别(特別)”などによって修飾される。たとえば、“很有修养(とても教養がある)”、“颇有修养(大変教養がある)”、“非常有修养(非常に教養がある)”、“十分有修养(非常に教養がある)”、“相当有修养(かなり教養がある)”、“特别有修养(非常に教養がある)”などがそれである。これは、“有+名詞”という構造に程度性が含まれているので、程度副詞による修飾を受け入れることができるからである。

しかし、名詞によっては修飾できない連語もある。たとえば、“??很有情况(「事情がある」の意)”、“??非常有出入(「出入りがある」の意)”、“??十分有故事(「ストーリーがある」の意)”、“??相当有东西(「ものがある」の意)”、“??特别有事情(「用事がある」の意)”などがそれである。“有情况(事情がある)”、“有出入(出入りがある)”、“有故事(ストーリーがある)”、“有东西(ものがある)”、“有事情(用事がある)”などは、具体的な内容を表わす連語であるが、程度性というものを含んでいないため、そのままでは程度副詞は修飾することができない。

一方、“有修养(教養がある)”、“有知识(知識がある)”、“有能力(能力がある)”、“有才华(才能がある)”、“有个性(個性がある)”、“有礼貌(礼儀正しい)”、“有趣味(趣味がある)”、“有眼光(先見の明がある)”、“有感情(感情がある)”などは、ある抽象的な状態を表わす連語であり、しかも状態性や程度性を含む連語と考えられるので、程度副詞とは共起できるのである。このように、

具体的な内容を表わすか抽象的な内容を表わすかによって、程度性を含んでいるかどうかにかかっているのである。

ところが、“有+点儿+名詞”の場合は、前述の“有修养(教養がある)”、“有知识(知識がある)”、“有能力(能力がある)”、“有才华(才能がある)”などのような、抽象的な内容を表わす連語はもちろん、“有情况(事情がある)”、“有出入(出入りがある)”、“有故事(ストーリーがある)”、“有东西(ものがある)”、“有事情(用事がある)”などのような、具体的な内容を表わす連語も程度副詞と共に起することができる。

たとえば、“颇有几点儿情况(事情がある)”、“很有点儿出入(出入りがある)”、“极有几点儿故事(ストーリーがある)”、“更有点儿东西(ものがある)”などがそれである。なぜなら、“有+点儿+名詞”には“(一)点儿”という量的語句があるので、連語全体に量的意味をもたらしているからである。そのため、程度副詞による量的修飾を受け入れることができる。

注意してほしいのは、そのままでは程度副詞による修飾を受けられないのに対し、量的語句が入るとそれによる修飾を受けることができるという点である。程度副詞の量的修飾を受けるには、被修飾語としての連語に量的語句が存在することが前提となっている。量的語句が存在しない場合は、程度副詞は修飾できないのである。言い換えれば、この種類の連語については、程度修飾ではなく、量的修飾を行うことになる。

一方、“有修养(教養がある)”、“有知识(知識がある)”、“有能力(能力がある)”、“有才华(才能がある)”などのような、抽象的な内容を表わす連語については、そのまま程度副詞による修飾を受ける場合は、程度修飾であるため、程度副詞によって程度の大小を表わすことになる。たとえば、“极有修养(非常に教養がある)”、“颇有知识(すごく知識がある)”、“很有能力(とても能力がある)”、“相当有才华(かなり才能がある)”などのような場合は、程度の大きいことを強調していると考えられる。

それに対し、“极有几点儿修养(非常に教養がある)”、“颇有几点儿知识(すごく知識がある)”、“很有点儿能力(とても能力がある)”などのような場合は、存在量を表わすことになる。存在量とは、動作、行為を表わす動作量ではなく、存在や所有を表わす静的状態の量である。

“极(極めて)”、“颇(頗る)”、“很(とても)”、“更(もっと)”は程度副詞として存在の程度性を修飾することができるだけでなく、存在の量性をも修飾することができる。しかし、他の程度副詞は、“\*太有点儿才华(「才能がある」の意)”、“\*十分有点儿才华(「才能がある」の意)”、“\*相当有点儿才华(「才能がある」の意)”、“\*非常有点儿才华(「才能がある」の意)”などのように、“有+点儿+名詞”という連語を修飾することができる。

このように、“有+点儿+名詞”という連語は程度修飾を受ける場合は、連語によって、共起できる場合と共起できない場合とがある。一方、程度副詞はその種類により、その連語を修飾できる程度副詞もあれば、修飾できない程度副詞もある。言い換えると、修飾語としての程度副詞にも、被修飾語としての連語にもそれぞれ制限があり、自由な共起は認められないのである。

### 3. 2. 副詞としての「有点儿」

“有点儿”は程度副詞として形容詞や状態を表わす動詞などを修飾できるという点では、その連語としての用法とは区別することができる。“有点儿”は大体以下のような用法がある。

- 一、形容詞や状態を表わす動詞などを修飾する用法
- 二、形容詞の重ね型を修飾する用法
- 三、四字の熟語を修飾する用法
- 四、他の文法構造を修飾する用法
- 五、他の程度副詞と共起して複合的表現を構成する用法。

以下、簡単に例を挙げて簡単に説明することとする。

- 一、形容詞や状態を表わす動詞などを修飾する用法

この用法は“有点儿”の程度副詞としての基本的な用法であり、形容詞や状態を表わす動詞などを修飾することができる。たとえば、

(1)“说啥呀？”她有点急，老公对她到来的第一天有什么不好的印象嘛？

(陈忠实《蓝袍先生》P16 江苏文艺出版社 2013. 01)

(2)“打什么针，吐出来就好了。”房医生用下巴点了一下我，说：“我倒是

有点担心这个小家伙，数他吃的多。”（莫言《四十一炮》P286 作家出版社 2012. 11）

“有点儿”は(1)では形容詞の“急(急ぐ)”、(2)では動詞の“担心(心配する)”を修飾し、その程度の小さいことを表わしている。

“有点儿”は低い程度性を表わす程度副詞として、好ましくない内容を表わす形容詞や動詞などを修飾することはできるが、好ましい内容を表わす形容詞や動詞などは修飾することができない。たとえば、“有点儿”は“舒服(気持ちがいい)”、“安全(安全だ)”、“重视(重視する)”、“器重(重んずる)”を修飾することができない。なぜなら、修飾語と被修飾語とは程度性が異なっているからである。好ましい内容を表わす形容詞や動詞などは、それ自体に高い程度性を含んでいるため、高い程度修飾を受け入れることになるが、低い程度修飾を受け入れることはできない。

一方、好ましい内容を表わす形容詞や動詞などは、否定形式を取ると、好ましくない内容を表わすため、“有点儿”は修飾することができるようになる。それで、“有点儿”は、好ましくない内容を表わす形容詞や動詞などを修飾し、程度の低いことを表わすことができるのである。

このように、“有点儿”は好ましくない内容を表わす形容詞や動詞などを修飾し、マイナスの評価を表わしている。肯定命題だけでなく、否定命題も修飾することができる、ただし、好ましい内容を表わす形容詞や動詞などを修飾することができない。

## 二、形容詞の重ね型を修飾する用法

- (3) (前略)，由于温差的缘故，晚上还有点冷飕飕的，这种冷热交融让人觉得好生过瘾。（张欣〈有些人你永远不必等〉《2003 中国年度最佳中篇小说》下卷 2004 年 2 月 漓 江出版社 P238）
- (4) 许超说完在那边嬉笑，这家伙读书时就有点神神叨叨，想不到当官了还是老样子。（陈家桥〈兄弟〉《人民文学》1998. 12P71）
- (5) 苏苏咕的一笑，差点把嘴里的咖啡喷溅出来。对羊羊说：“这是我的外甥。有点傻不愣怔的。”（肖元生〈去了一层皮〉《人民文学》2000. 12P50）

“有点儿”は形容詞の重ね型を修飾することができる。“冷飕飕(風が冷え冷えとしている)”、“神神叨叨((言動が)突飛である)”、“傻不愣怔(愚かなさま)”は、ABB 式・AABB 式・XYZ 式の重ね型であるが、いずれも状態性を含んでいるので、“有点儿”と共起することができる。《現代汉语八百詞》では下記の七つの種類の形容詞の重ね型が挙げられている。

- ①AA 式：红红的(赤々とした)
- ②ABB 式：冷飕飕(冷え冷えとしている)
- ③ABC 式：酸不唧的(少し酸っぱい)
- ④XYZ 式：傻不愣怔(愚かなさま)
- ⑤AABB 式：干干净净(非常にきれいだ)
- ⑥A 里 AB 式：糊里糊涂(愚かだ)
- ⑦BABA 式：笔直笔直(真っ直ぐだ)

この中で、①～⑥はいずれも相対的な状態性を含んでいるため、“有点儿”は修飾することができる。ところが、⑦の BABA 式は、絶対的な状態性を含んでいるため、“有点儿”とは共起することができない。

“有点儿”は形容詞の原型だけでなく、形容詞の重ね型も修飾することができるという点では、他の程度副詞とは異なっている<sup>2)</sup>。この点は“有点儿”の構成やその意味による文法的機能の延長と考えられる。

### 三、四字の熟語を修飾する用法

- (6) 冬梅说丁哥你现在在哪儿？你方便吗？我想见你！一听她的声音，丁东一时间便有点怒不可遏。(席建蜀〈一剪梅〉《2003 中国年度最佳中篇小说》下卷 2004 年 2 月漓江出版社 P312)
- (7) 你总不能跟一些满身是老年斑的人一起泡温泉吧。但我经过这只池子的时候，却看见池子里只有一个我在温泉里泡得已经有点昏昏欲睡了，给他一问，连忙睁大眼睛。(起子〈细小病毒〉《2003 中国年度最佳中篇小说》下卷 2004 年 2 月漓江出版社 P155)
- (8) 李富贵结婚那天奈月没有来，谁都知道奈月没来，李富贵不知道，李富贵忙着拜堂、敬酒、分烟，动不动就大笑，嘴一直没合拢过，样子有

点魂不守舍。(北北〈寻找妻子苦菜花〉《2003 中国年度最佳中篇小说》  
上卷 2004 年 2 月漓江出版社 P23)

- (9) 我那些联想经他一批驳，确实有点狗屁不通，当下我能笑笑，表示承认书记的批评。(鲁彦周〈闹羊花〉《人民文学》1998. 8P78)

“有点儿”は“怒不可遏(怒りを抑えることができない)”、“昏昏欲睡(うとうとと眠気を催す)”、“魂不守舍(魂がぬけでる)”、“狗屁不通(へたくそだ)”などの四字の熟語を修飾することができる。これらの四字の熟語は強い状態性を含んでいるため、よくそのままで状態の描写に用いられている。“有点儿”はこれらの強い状態性を含んでいる熟語を修飾することができるという点では、“有些”<sup>3)</sup>と共通している。

#### 四、他の文法構造を修飾する用法

- (10) 时间太早了不行，那样显得不稳重，时间太晚了也不好，那样有点翘尾巴。(陈昌平〈英雄〉《2003 中国年度最佳中篇小说》上卷 2004 年 2 月漓江出版社 P23)
- (11) 他说，我是桃花村的。小老板有点反应不过来，眼睛一眨一眨地盯着他。(北北〈寻找妻子苦菜花〉《2003 中国年度最佳中篇小说》上卷 2004 年 2 月漓江出版社 P14)
- (12) 这话是宽大秀的心。大秀却听出了事情的严重，吓坏了，泪水汪汪的。挺了个大肚子抖抖索索就有点支撑不住。(阙迪伟〈故事〉《人民文学》1997. 12P43)
- (13) 袁九斤因为不能跪，只好面对城墙跪在哪里。其实他醉得坐都有点坐不住了，头昏脑胀，连眼漆黑，只听“叭”的一声枪响，他就趴倒了。(马烽〈袁九斤的故事〉《人民文学》1997. 11P14)

“有点儿”は「翘尾巴(得意になる)」という「動詞＋目的語」、「反应不过来(反応できない)」、「支撑不住(支えられない)」、「坐不住(座ってられない)」という「動詞＋可能＋否定」をいずれも修飾することができる。構造の如何によって、状態性と程度性を含んでいる連語であれば、“有点儿”はそれらを修飾することができる。この点も他の程度副詞の持っていない文法的機能だと



考えられる。

#### 五、他の程度副詞と共に共起して複合的表現を構成する用法

“有点儿”は、他の程度副詞と共に共起して、複合的な修飾構造を作ることができる。たとえば、

(14) 妈妈谁没有格外长出爱干净的习惯，以礼待人的教养，但她长出了治家过日子的意识，和一万块钱相比，和一座房子相比，干净和教养还是有点太虚了嘛！（北北〈寻找妻子苦菜花〉《2003 中国年度最佳中篇小说》上卷 2004 年 2 月漓江出版社 P62）

(15) 相比较，我感到我们家里太有点儿杂乱无章，-----。（叶广苓〈广岛故事〉《2003 中国年度最佳中篇小说》上卷 2004 年 2 月漓江出版社 P278）

(16) 话已经说到这份儿上，隋志高仍不为所动，说忙，回不去。见隋志高总是回绝，老歪颇有点怨，话里话外流露出嫌隋志高耍打牌、不给面子的意思。（徐坤〈年轻的朋友来相会〉《2003 中国年度最佳中篇小说》上卷 2004 年 2 月漓江出版社 P228）

(17) 柳霞的脸上很有点挂不住了，连忙否认，才不是呢！谁怕谁呀！随即，脱口便将那个人的名字告诉给李秀梅。（张学东〈婚俗二题〉《2003 年中国短篇小说精选》P185 长江文艺出版社）

“有点儿”は、程度副詞の“太(あまりに)”と共に共起し、その前にも後にも用いることができる。(14)の場合は“有点儿”の前に来て、客観的な程度評価を表わしているが、(15)の場合はその後に来て、主観的な程度評価を表わしている。一方、“颇(頗る)”、“很(とても)”については、(16)(17)のように、その後にはしか用いることができず、その前には用いることができない。たとえば、“\*有点颇怨(「恨む」の意)”、“\*有点很挂不住了(「恥ずかしくてたまらない」の意)”などがそれである。このことは、“有点儿”が程度副詞の前に用いられたりその後用いられったりすることを示している。“有点儿”は多くの文法的機能が付与されているため、他の程度副詞とは大きく異なっていると言える。

### 3. 3. 二者の接点と境界線

連語としての“有点儿”と副詞としての“有点儿”については、それぞれの意味と用法を理解するため、対照考察する必要がある。目的はその接点と境界線を究明することにある。

一、「有+点儿」+名詞」の場合は連語である。

“有点儿”は後に名詞が来ると、連語として用いられている。たとえば、“有点儿修养(少し教養を身に付けている)”、“有点儿知识(少し知識がある)”、“有点儿风格(少し風格がある)”、“有点儿精神(元気だ)”、“有点儿本事(腕前がある)”、“有点儿才华(少し才気がある)”、“有点儿能力(少し能力がある)”、“有点儿时间(少し暇がある)”、“有点儿功夫(少し時間がある)”、“有点儿兴趣(少し興味がある)”、“有点儿经验(少し経験がある)”、“有点儿格局(少し構成がある)”、“有点儿眼力(少し目が利く)”などがそれである。

これらの表現は、“(一)点儿”を除くと、いずれも“有修养(教養がある)”、“有知识(知識がある)”、“有风格(風格がある)”、“有精神(元気がある)”、“有本事(腕前がある)”、“有才华(才気がある)”、“有能力(能力がある)”、“有时间(暇がある)”、“有功夫(時間がある)”、“有兴趣(興味がある)”、“有经验(経験がある)”、“有格局(構成がある)”、“有眼力(目が利く)”のように成立する。ここから考えると、“有”は、動詞として目的語を取る形で、述語に用いられている。

“有修养(教養がある)”、“有知识(知識がある)”などは、いずれも「述語+目的語」であり、“有+修养(教養+ある)”、“有+知识(知識+ある)”のように分析できる。この「述語+目的語」の構造は、「動詞+名詞」からなっている。数量詞としての“(一)点儿”が入ると、“有点儿修养(少し教養がある)”のように、「有+点儿+名詞」を構成することになる。この場合は連語としての用法と言えよう。

この構造の場合は、程度副詞としての“有点儿”ではないと考えられる。というのは、「“有点儿”+名詞」という構造ではなく、「“有+点儿”+名詞」という構造であって、程度副詞としての“有点儿”は、前述のように相対的な状態性を含む形容詞や動詞などを修飾することになり、文法的には名詞を直接修飾できないという文法的特徴があるからである。したがって、名詞が

登場する場合は、程度副詞は機能しないため、連語としての用法だと考えられる。

二、「“有点儿”＋形容詞/動詞」の場合は程度副詞であり、連語ではない。

“有点儿”は、程度副詞の基本的用法として形容詞や動詞などを修飾することになる。また、形容詞の重ね型を修飾する用法と、四字の熟語を修飾する用法と、他の文法構造を修飾する用法と、他の程度副詞と共に共起して複合的表現を構成する用法を有しているということは、前述のとおりである。

この場合、連語ではないことの根拠として、“有＋了＋点儿”という形は取れないからである。

(18)\*她有了点急。

(19)\*晚上还有了点冷飕飕的。

(20)\*丁东一时间便有了点怒不可遏。

(21)\*那样有了点翘尾巴。

(22)\*干净和教养还是有了点太虚了嘛！

“有点儿”は連語から転じてきた程度副詞であり、程度副詞の一つとして他の程度副詞と共通した文法的機能を持つとともに、共通な文法的制限も持っている。他の程度副詞は、形容詞や動詞などを修飾するのに対し、“有点儿”は、さらに他の程度副詞の持っていない文法的機能も付与されているし、様々な表現に用いられているため、描写性の最も強い程度副詞として認められている。

連語ではないことの二つ目の根拠は、“有点儿”における“点儿”がぬける場合は、被修飾語によって認められないからである。

“急”、“冷飕飕”、“怒不可遏”、“翘尾巴”、“(太)虚”などは、形容詞や状態性、程度性を含む四字の熟語などとして、“有点儿”による修飾を受け入れることはできるが、動詞“有”による修飾を受け入れることはできない。

(23)??她有急。

(24)??晚上还有冷飕飕的。

(25)??丁东一时间便有怒不可遏。

(26)??那样有翘尾巴。

(27)??干净和教养还是有太虚了嘛!

などがそれである。

上述の“有教养(教養がある)”、“有知识(知識がある)”とは異なり、“点儿”がないと、動詞の“有”は“急(急ぐ)”、“冷飕飕(冷え冷えとしている)”、“怒不可遏(怒りを抑えることができない)”、“翘尾巴(得意になる)”、“(太)虚(むなし)”などと関係しないので、“有点儿”として用いられていると理解できる。形容詞や動詞、四字の熟語、他の文法的構造及び他の程度副詞と共に起る時の文法的内容を修飾する場合は、連語ではなく、程度副詞として働くものと言える。

三、“有点儿”は少量を表わす程度副詞と共に起る場合は、連語になる場合と連語にならない場合がある。

“有点儿”は“太(あまりに)”、“极(極めて)”、“颇(頗る)”、“很(とても)”などの高い程度性を表わす程度副詞と共に起る他、また“稍微(少し)”、“略微(少々)”、“多少(多少)”などの少量を表わす程度副詞と共に起ることもできる。

“稍微(少し)”、“略微(少々)”、“多少(多少)”は程度副詞として、少量を表わす語句と共に起らないと文法的には機能しない<sup>4)</sup>という点では、他の程度副詞と大きく異なっている。そして、“有点儿”と共に起る場合は、“稍微+有点儿”、“略微+有点儿”、“多少+有点儿”のように、“有点儿”の前に使わなければならない。“有点儿”の後に使用されることは考えられないので、“有点儿+稍微”、“有点儿+略微”、“有点儿+多少”のような構造は成立しないのである。

“稍微+有点儿”、“略微+有点儿”、“多少+有点儿”は複合的修飾構造として、少量を表わすという点ではほぼ共通している。被修飾語の品詞によって、“有点儿”は、程度副詞としての機能を果たす場合と、連語としての機能を果たす場合がある。

“稍微有点儿时间(少し暇がある)”と“稍微有点儿伤心(少し悲しむ)”の場合は、目的語によって、“有点儿”の属性が異なってくることがある。“稍微有点儿时间(少し暇がある)”における“时间(暇)”は名詞であり、“有点儿”は“有+点儿”という連語として用いられているものと考えられる。一方、“稍微有点儿伤心(少し悲しむ)”における“伤心(悲しむ)”は形容詞であり、“有了点儿伤心”のように“了”と共起できないため、“有点儿”は程度副詞として用いられていると言える。これは、複合的構造に用いられている“有点儿”の程度副詞であるか連語であるかを区別する方法であり、被修飾語に立つ名詞によって、“有点儿”の文法的性質を判断する根拠にもなっている。普通の名詞であれば、“有点儿”は連語であるが、形容詞や動詞になると、“有点儿”は程度副詞と考えるべきである。そして、他の程度副詞と共起する場合にもこの区別の方法は有効である。

一方、“稍微(少し)”、“略微(少々)”、“多少(多少)”は“有点儿”と共起しない場合は、名詞であっても、形容詞であっても、直接被修飾語にはかかわらない。たとえば、“\*稍微时间(「少し時間がある」の意)”、“\*稍微有时间(「少し時間がある」の意)”、“\*稍微伤心(「少し悲しむ」の意)”などのように、名詞の“时间”や形容詞の“伤心”にはいずれも関わらない。また、連語の“有时间”にも関わらないことから、“稍微”、“略微”、“多少”は、量的語句との共起が必要であるため、“稍微有点儿时间”の場合は、“点儿”は量的語句として用いられているが、“稍微有点儿伤心(少し悲しむ)”の場合は、“有点儿”の力を借りて複合的修飾構造を作った上で、形容詞の“伤心(少し悲しむ)”に関わっているものと見られる。

#### 4. まとめ

“有点儿”は連語として用いられる場合は、被修飾語としての名詞が用いられることになるが、程度副詞として用いられる場合は、被修飾語として、状態性を含む形容詞や動詞が用いられることになる。被修飾語が名詞以外の場合は、程度副詞としての用法と認められるが、判定しにくい場合もある。たとえば、“有一點儿进步”、“有了一点儿进步”などがそれである。“有一點儿进步”は、「動詞+数量詞+名詞」と「程度副詞+動詞」のいずれにも分析で

きる。“进步”は名詞としても、動詞としても用いられるからである。名詞であるか形容詞(あるいは動詞など)であるかによる境界線はあるものの、名詞兼動詞や名詞兼形容詞の場合は、その境界線ははっきりしない。ただし“有了一点儿进步”の場合は、連語だと認めるべきである。それで、アスペクト助詞の添加の有無も、その境界線をはっきりさせる手段の一つだと考えられる。“进步”のような名詞兼動詞は他にもあり、例えば、“骄傲(誇りに思う)”、“夸张(誇張する)”、“自信(自信がある)”、“退步(退歩する)”、“储蓄(貯金する)”、“习惯(慣れる)”などがそれである。このような名詞兼動詞あるいは名詞兼形容詞は、被修飾語に立つ場合、その品詞により、連語としての用法と程度副詞としての用法をつなぐ接点にもなっている。そして、その接点は、“有点儿”の構成に由来しているものと考えられる。

## 注

- 1) “有点儿”には前述のように様々な表記はあるが、本研究では“有点儿”と記す。なお、引用した例文の場合はそのままとする。以下同じである。
- 2) 他の程度副詞、例えば“太(あまりに)”、“极(極めて)”、“很(とても)”などはこれらの形容詞の重ね型を修飾することができないという点では、“有点儿”と全く異なるところである。
- 3) “有些(幾らか)”は形容詞の重ね型や四字の熟語や他の文法構造を修飾できるという点では“有点儿”と共通しているが、数量・程度があまり多くないさまを表わすという点ではそれと少し違っている。
- 4) “稍微(少し)”、“略微(少々)”、“多少(多少)”が量的語句と共起しなければ修飾語としての機能を果たせないという点については、杨从洁(1983)、马真(1989)、时卫国(1996)、张谊生(2004)などではいずれも言及している。

## 文献目録

程美珍(1988) 〈受“有点儿”修饰的词语的褒贬义〉《世界汉语教学》第三期

大島吉郎 (2004) 「対話文中における“有点儿”の機能」『語学教育研究論叢』第21号

李宇明 (2000) 《汉语量范畴研究》华中师范大学出版社

吕叔湘主编 (1984) 《现代汉语八百词》商务印书馆

陆俭明·马真 (1985) 《现代汉语虚词散论》北京大学出版社

吕叔湘 (1965) 〈语文札记〉《中国语文》第5期

吕叔湘·饶长溶 (1981) 〈试论非谓形容词〉《中国语文》第2期

马真 (1989) 〈说副词“有点儿”〉《世界汉语教学》第四期

时卫国 (1997) 〈“有点”的意义用法〉《安徽教育学院学报》第四期

时卫国 (1998) 〈“有点”与形容词重叠形〉《河北大学学报》第二期

時衛国 (2011) 『中国語の程度表現の体系的研究』白帝社

時衛国 (2015) 「“有点”“有些”の幾つかの用法について」『外国語研究』48号

時衛国 (2016) 「“一点儿”、“有点儿”与动词的关系」『現代中国語文法研究』第6号

時衛国 (2017) 『中国語の低程度修飾の研究』愛知教育大学出版会

時衛国 (2019) 『中国語の少量と低程度表現の対照研究』愛知教育大学出版会

史彤嵐 (2008) 『动作行为形状与结果的表达方式研究』好文出版

王学群 (2019) 「“有+(一)点(儿)”は連語(副詞)か?」『連語論研究』第44号

王聰 (1993) 〈关于“有点儿”修饰动词结构及其他〉『桜美林大学中国語文学論叢』第十八号

张国宪 (2006) 《现代汉语形容词功能与认知研究》商务印书馆

张谊生 (2004) 《现代汉语副词探索》学林出版社

朱德熙 (1982) 《语法讲义》商务印书馆

(ジ エイコク 中国山東大学外国語学院・人文社会科学青島研究院特別招聘教授/  
国立大学法人愛知教育大学外国語教育講座・日本語教育講座元教授)